平成２１年１０月の解説（府県天気予報）

【１０月の天候状況】

上旬の初めは前線を伴った低気圧が西日本を通過したため全国的に天気はぐずつき、熊本県を中心に猛烈な雨となりました。8 日は台風第 18 号が愛知県に上陸し、全国各地で暴風や大雨となりました。中旬は北日本から西日本では天気が周期的に変わりましたが、沖縄地方では曇りや雨の日が多くなりました。下旬の前半は高気圧に覆われて全国的に晴れの日が多くなりましたが、25 日から 27 日かけて台風第 20 号が日本の南を北東に進んだため、南西諸島と東日本の太平洋側を中心に大雨となりました。

月を通しての日照時間は東北地方から中国地方で平年より多く、沖縄地方ではかなり少なくなりました。降水量は北日本から西日本の太平洋側を中心に平年より多く、南西諸島ではかなり多くなりました。気温は全国的に平年より高くなりました。

【１０月の検証結果】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が 88%で例年(注)より 5 ポイント高く、明後日予報が 83%でより 3 ポイント高くなりました。地方毎の適中率は明日予報ではほぼ全国的に例年より高くなり、東日本から中国・四国地方と九州南部地方では 5 ポイントから 10 ポイント高くなりました。明後日予報もほぼ全国的に例年より高くなり、東日本から中国・四国地方と九州南部地方、沖縄地方では 2 ポイントから 8 ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は例年に比べてほぼ全国的に 0.3℃前後小さく、全国平均は 0.3℃小さい 1.4℃でした。最低気温の予報誤差もほぼ全国的に例年より 0.2℃前後小さく、全国平均は例年より 0.1℃小さい 1.4℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【１０月の天気予報から】

10 月 20 日は、低気圧が日本海北部を北東に進み、関東地方では雲は多いながら午前中を中心に晴れて、日最高気温が 25℃以上の夏日となったところがありました（図 1）。

前日の 10 月 19 日 17 時に発表した東京地方の 20 日の天気予報は「南の風 23 区西部では南西の風やや強く　晴れ昼前まで時々曇」で、最高気温を 26℃と発表しました。これは、上空の気圧の谷に伴う薄雲が午前中を中心に東京地方にかかるものの、その後は次第に南西の風が強まり、晴れて気温が上昇すると考えたからです。

実際の 20 日の天気は、日中は晴れて東京（大手町）では 12 時 38 分に平年より約 6℃高い 27.1℃まで気温が上昇しました。このほか、神奈川県や千葉県、埼玉県などでも夏日となったところがありました (図 2)。

前日の最高気温がほぼ平年並みの 22.4℃であった東京（大手町）では急に気温が上昇し、27℃を超えたため、多くの方が季節外れの暑さを感じたようです。

関東地方では低気圧が日本海を北東に進む場合、南西風の影響で他の地域に比べて天気の崩れが小さくなったり遅れたりして、気温が上昇することがあります。最近は数値予報の精度が上がり、気温の予測でもこのような地域特性をかなり予想できるようになりました。しかし、実際の天気は地形などの影響を受け、数値予報による予想のように変化しないこともあります。予報官は数値予報の予想をうのみにするのではなく、予想で示された天気や気温の変化などについて常に気象学的な意味を考え、数値予報と実況の経過との違いなどにも着目しながら、的確な予報を発表するよう努めています。

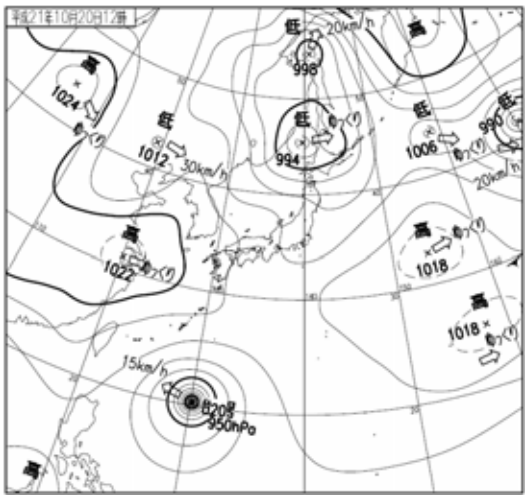

図 1 平成 21 年 10 月 20 日 12 時の地上天気図

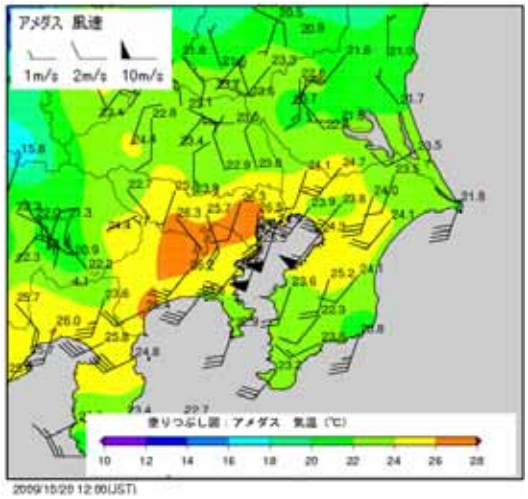

図 2 平成 21 年 10 月 20 日 12 時のアメダスの風、気温(オレンジの地域は 26℃以上)。

【１２月の天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりです。北日本では雨よりも雪の降る日が次第に多くなり、山沿いや日本海側を中心に時には大雪になることもあります。

特に低気圧が発達しながら日本付近を通過した後、強い冬型の気圧配置となるときには、北日本や日本海側を中心に暴風や高波、大雪、ふぶき、突風などにより、建物などの損傷、停電などの被害や列車の運休、航空便や船便の欠航などの交通障害が発生するおそれもあります。各地の気象台で発表する最新の気象情報を活用して事前に備えるようにして下さい。